



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.59

令和3年12月14日

文責：校長 伊藤 孝行

教育相談ありがとうございました。

教育相談の中でよく話題にあがることに、子どもの成長に伴う変化があります。

「小さい頃は素直で、親の言うことはよく聞いていたのに、近頃は、言葉遣いか乱暴になり、返事もろくにしません。悪い友だちの影響を受けているのでしょうか？」こんな質問もあります。

あんなに素直だった〇〇ちゃんが、「うるせー、関係ないだろ。」等と言うことを信じたくない気持ちも分かりますが、「乱暴な言葉遣いやそっけない態度」は、むしろ、子どもが健全に成長している証拠なので安心してください。

子どもの発達と親の関わりについて、中学年と高学年に分けて述べていきます。

最初に子どもの成長・発達には個人差があるので、すべてが該当することではないということを述べておきます。

【子どもの発達と親の関わり・中学年】

○ 発達段階に見られる代表的な言動

① 自己中心的な言動がある



子どもが自分の欲求や行動をコントロールする能力は、自己主張の力よりゆっくりと発達していきます。喜びや楽しみ、怒りや不安などの感情を自分で気づきコントロールできるように支援しましょう。

② 友だちとの交流を大切にするが、友だち関係で悩みをもつ



家族外、とくに友だちへと意識が変わってきて、交友関係を重要視します。

自分の考えや判断に基づいて、友だちと行動をとるにします。ルールや相手の気持ちの理解が十分ではないこともあります。

親が「〇〇ちゃんとは遊ばない方がいいよ。」などと言うと反発が大きくなります。

この時期は子どもの友だち関係を大切にしながらしっかりと見守ることが大切です。

③ 親に反抗的な態度をとる



子どもに何か注意すると、反論や屁理屈が多くなってくるかもしれません。それは自分で考える力、批判できる言語能力が発達している証拠です。

親のかかわりとしては、子どもの行動を3つに分けます「①ほめる行動、②注目しない行動、③抑止が必要な行動（すぐにやめさせる）」。

この3つの対応を繰り返し行うことで、子ども自身がコントロールするスキルを身に付けることを支援します。

中学年以降に見られる子どもの特徴

親やおとなを見て学ぶ力が育ってきます。そのため、親が言ったことをするのではなく、親がやったこと（行動）を真似します。

例えば、おとなが長時間ゲームをしたり動画を見たりしていれば、子どもの目には楽しそうに映ります。だから、子どもも同じようにします。そんなときに「ゲームばかりしていないで勉強をなさい。」と言っても子どもの心には届きません。むしろ「自分だってやっているのに・・・」となります。

難しいことですが、言葉より行動で示さなければ子どもを納得させることはできません。